

# 2011年7月期決算説明会

株式会社 ティー・ワイ・オー

2011年9月21日

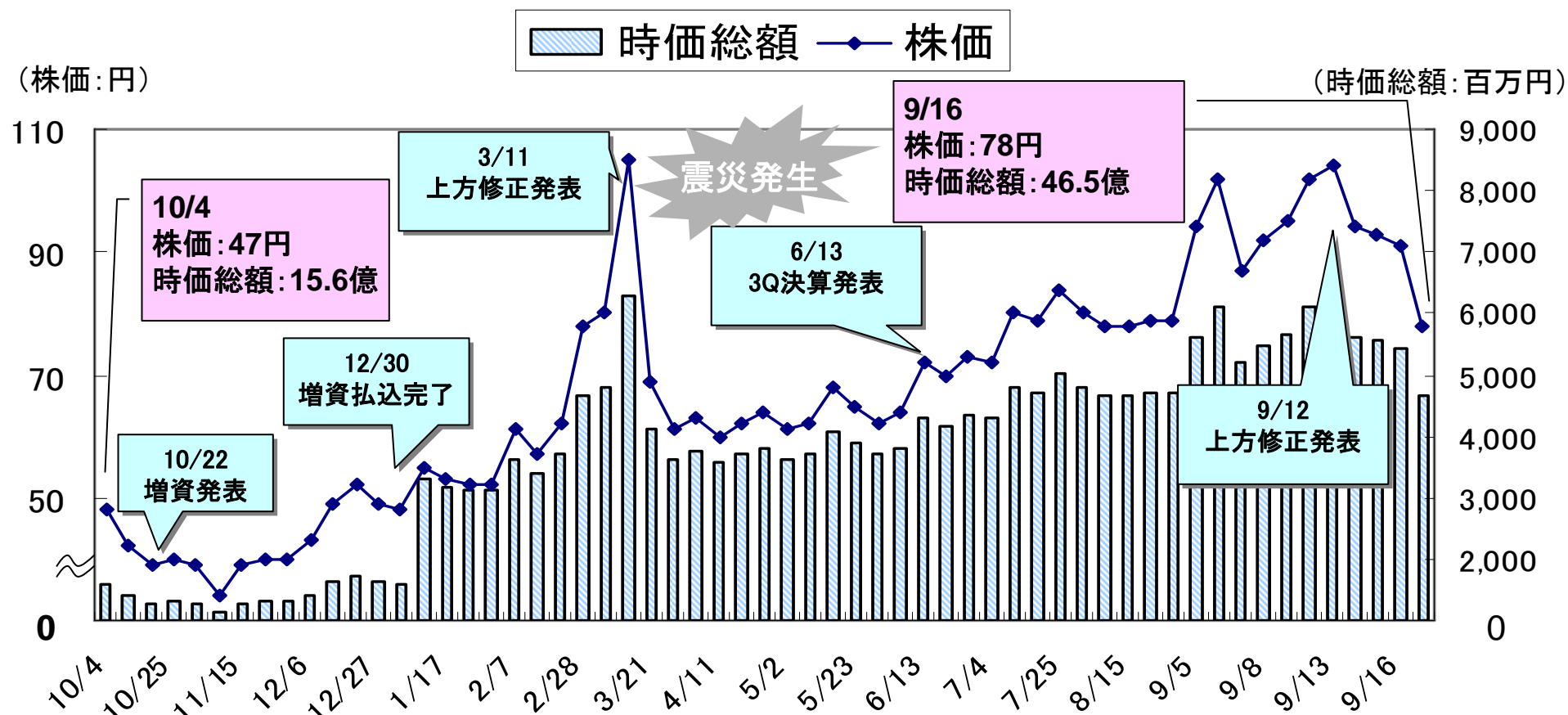
**JASDAQ**

(4358)

highly confidential ©TYO

# はじめに. 株価及び時価総額推移

2010年末の増資の発表後、株価は上昇トレンドにあり、  
**時価総額は3.0倍※に。**



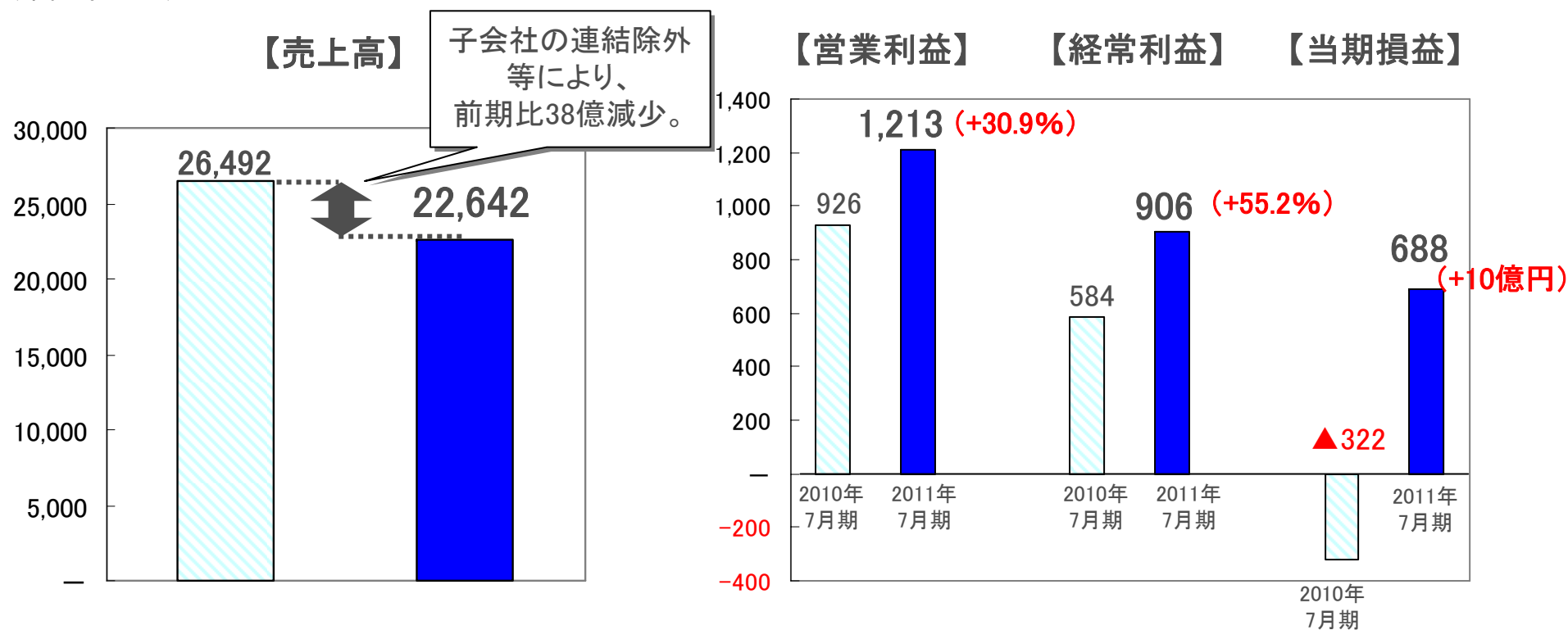
※2010年10月4日と2011年9月16日の比較

# 1. 2011年7月期決算ハイライト

# 1.1.1. 2011年7月期連結決算ハイライト

子会社の連結除外の影響等により売上高は前期比で減少も、  
本業回帰及び業務効率化により、**創業以来最高の当期利益を計上。**

(単位:百万円)

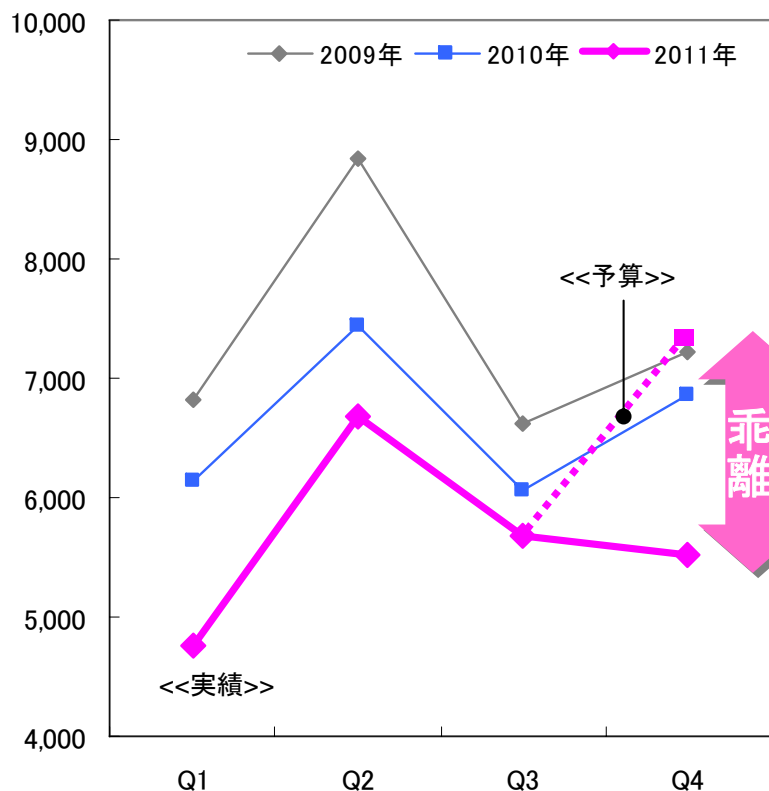


## 1.1.2. 2011年7月期連結決算ハイライト

3Qまでは好調に推移するも、4Qの売上は、  
地震の影響や海外の不調により、**期首予算より約13億円減少**。

【売上高推移】

(単位:百万円)



【Q4予算と約13億円の乖離】

✓地震の影響等に伴う減少……約8.8億。

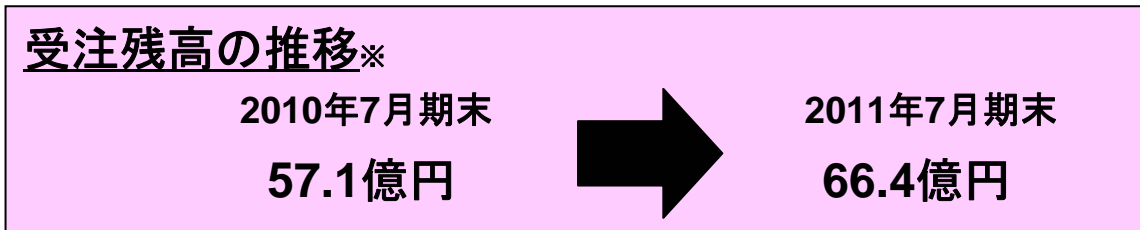
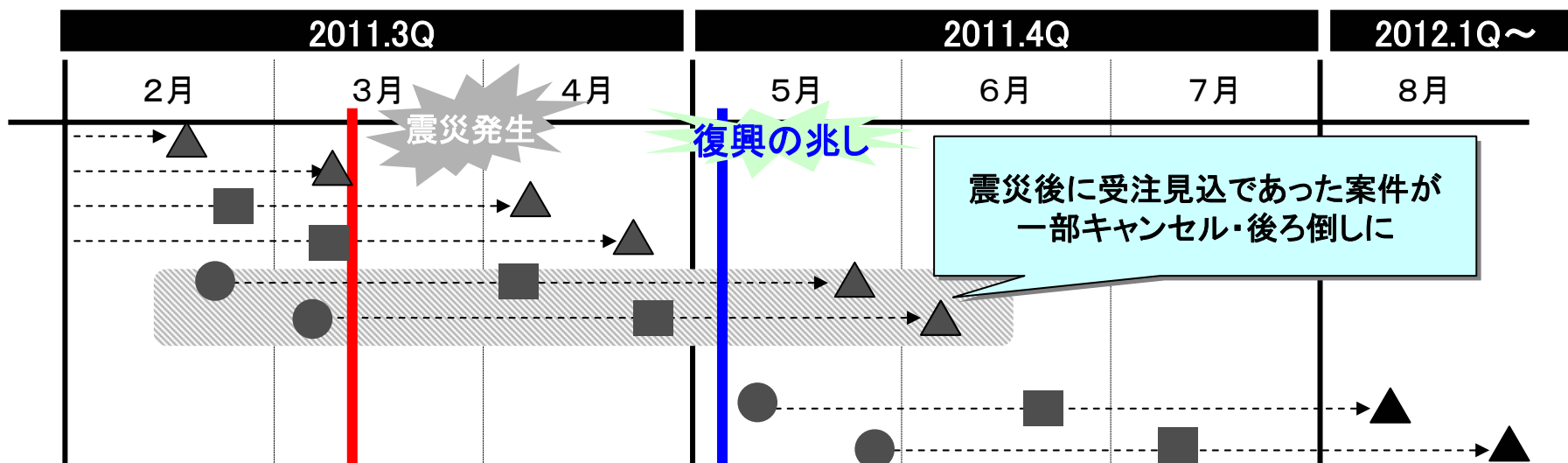
✓海外の不調に伴う減少……約3.2億。

### 1.1.3. 震災の影響

震災の影響は2011年7月期4Qに留まり、  
**5月以降 受注は改善傾向にある。**

●……引合(広告主/代理店による選定)    ■……受注・制作    ▲……検収・売上認識

※通常、受注・制作が始まっている案件についてはキャンセルとはならない。



## 1.2. 連結損益計算書サマリー

	2010年7月期		2011年7月期		増減額	増減率 (%)	
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)			
売上高	26,492	-	22,642	-	-3,850	-14.5	✓ 連結子会社の譲渡等により売上高は減少。
売上総利益	5,934	22.4	5,082	22.4	-852	-14.4	✓ 全社的なコスト削減により、 前期比 <b>11億円</b> の削減
販売管理費	5,007	18.9	3,869	17.1	-1,138	-22.7	✓ 業務効率化及びコスト削減を推進した 結果、営業利益率が <b>1.9ポイント</b> 改善。 【2010年7月期】 <b>3.5%</b> ⇒ 【2011年7月期】 <b>5.4%</b>
営業利益	926	3.5	1,213	5.4	287	31.0	
営業外収益	185	0.7	133	0.6	-52	-28.1	
営業外費用	527	2.0	439	1.9	-88	-16.7	
経常利益	584	2.2	906	4.0	322	55.1	✓ 前期利益を圧迫していた特別損失要因 がなくなり、利益の大幅改善に寄与。
特別利益	1,328	5.0	63	0.3	-1,265	-95.3	
特別損失	1,691	6.4	346	1.5	-1,345	-79.5	✓ グループ統合等による、税効果の影響。
法人税等合計	511	1.9	-55	-	-566	-	
当期純利益	-322	-	688	3.0	1,010	-	✓ 創業以来、最高の当期純利益を計上。

### 1.3.1. 連結貸借対照表①

(単位:百万円)

	2010年7月期	2011年7月期	増減	
<b>流動資産</b>	<b>8,974</b>	<b>9,712</b>	<b>738</b>	<p>✓ TV-CM事業の好調、増資、コスト削減により、前期比<b>1,417百万円</b>増加。</p>
現金及び預金	2,825	4,242	1,417	
受取手形及び売掛金	4,035	3,203	-832	
仕掛品及び原材料等	1,299	1,450	151	
その他	814	816	2	
<b>固定資産</b>	<b>4,976</b>	<b>4,362</b>	<b>-614</b>	<p>✓ TV-CM事業の好調により増加。</p>
有形固定資産	2,091	2,031	-60	
無形固定資産	1,160	805	-355	<p>✓ 新規投資・出資の手控えと、のれん/出資金の減損により減少。 ⇒ <b>来期以降の利益改善に寄与。</b></p>
のれん	1,047	714	-333	
その他	113	91	-22	
<b>投資その他の資産</b>	<b>1,723</b>	<b>1,524</b>	<b>-199</b>	<p>✓ MBOLしたゲーム会社に対する貸付金であるが、全額引当済み</p>
出資金	290	173	-117	
長期貸付金	719	695	-24	
その他	713	656	-57	
<b>資産合計</b>	<b>13,950</b>	<b>14,075</b>	<b>125</b>	

## 1.3.2. 連結貸借対照表②

(単位:百万円)

		2010年7月期	2011年7月期	増減
負債の部	流動負債	4,702	7,118	2,416
	買掛金	2,291	2,244	-47
	短期借入金	715	3,740	3,025
	未払法人税等	464	27	-437
	海外事業損失引当金	—	63	63
	その他	1,230	1,042	-188
	固定負債	8,800	4,534	-4,266
	長期借入金	8,249	4,016	-4,233
	その他	551	517	-34
	負債合計	13,502	11,653	-1,849
純資産の部	株主資本	381	2,371	1,990
	資本金	1,101	1,751	650
	資本剰余金	703	1,353	650
	利益剰余金	-1,422	-732	690
	自己株式	0	0	0
	その他の包括利益累計額	-69	-62	7
	その他有価証券評価差額金	-1	-15	-14
	為替換算調整勘定	-68	-47	21
	新株予約権	32	24	-8
	少数株主持分	102	88	-14
	純資産合計	447	2,421	1,974
負債純資産合計	13,950	14,075	125	

✓ 好調なTV-CM事業の営業キャッシュにより、  
**有利子負債を順調に返済。**

✓ **創業以来最高の当期純利益**  
の計上により、利益剰余金のマイナスを削減。

✓ 純利益の計上により、**純資産が改善。**

**【1株当たり純資産】**

- 2010年7月期末 9.4円
- 2011年7月期末 38.7円

**【自己資本比率】**

- 2010年7月期末 2.2%
- 2011年7月期末 16.4% ⇒ 7.4倍

# 1.4. 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2010年7月期	2011年7月期	
税金等調整前当期純利益	220	623	
償却費(著作権、のれん、負ののれん、出資金)	1,347	553	✓ 円谷プロダクション除外の影響で出資金や著作権等の償却負担が減少。 ⇒ <b>収益力の強化に寄与。</b>
投資有価証券/関係会社株式売却損益(△は益)	-1,232	-	
不採算事業整理損失の引当金の増減額(△は減少)	1,188	63	
資金調達費用	-	106	✓ 増資に伴う費用。
売上債権/たな卸資産の増減額(△は増加)	-370	680	
仕入債務/未払金/前受金の増減額(△は減少)	-630	-165	
その他	-819	-329	
営業活動によるキャッシュ・フロー	-296	1,531	✓ TV-CM事業の好調、並びにコスト削減が奏功し、 <b>営業キャッシュの大幅増加。</b>
有形/無形固定資産の売却/取得による支出	57	-199	
投資有価証券/子会社株式の売却による収入	1,976	16	
差入保証金の差入/回収による支出	114	75	
製作委員会等への組合出資/分配による収入	6	75	✓ 製作委員会等への新規の出資を控えたことと、分配金の収入により、利益貢献。
保険積立金の積立/払戻による支出	-41	-51	
貸付けによる支出/回収による収入	1,456	94	
その他	-44	1	
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,518	11	
借入金/社債増減	-2,474	-1,207	✓ 有利子負債の返済に伴う支出。
新株式発行による収入	-	1,189	
自己株式の売却による収入	366	-	
その他	-82	-101	✓ 第三者割当増資の実施により獲得。
財務活動によるキャッシュ・フロー	-2,190	-119	

## 2. 経営施策の進捗状況

## 2.1. 5つの経営施策

1 **グループ統合**

2 **選択と集中**

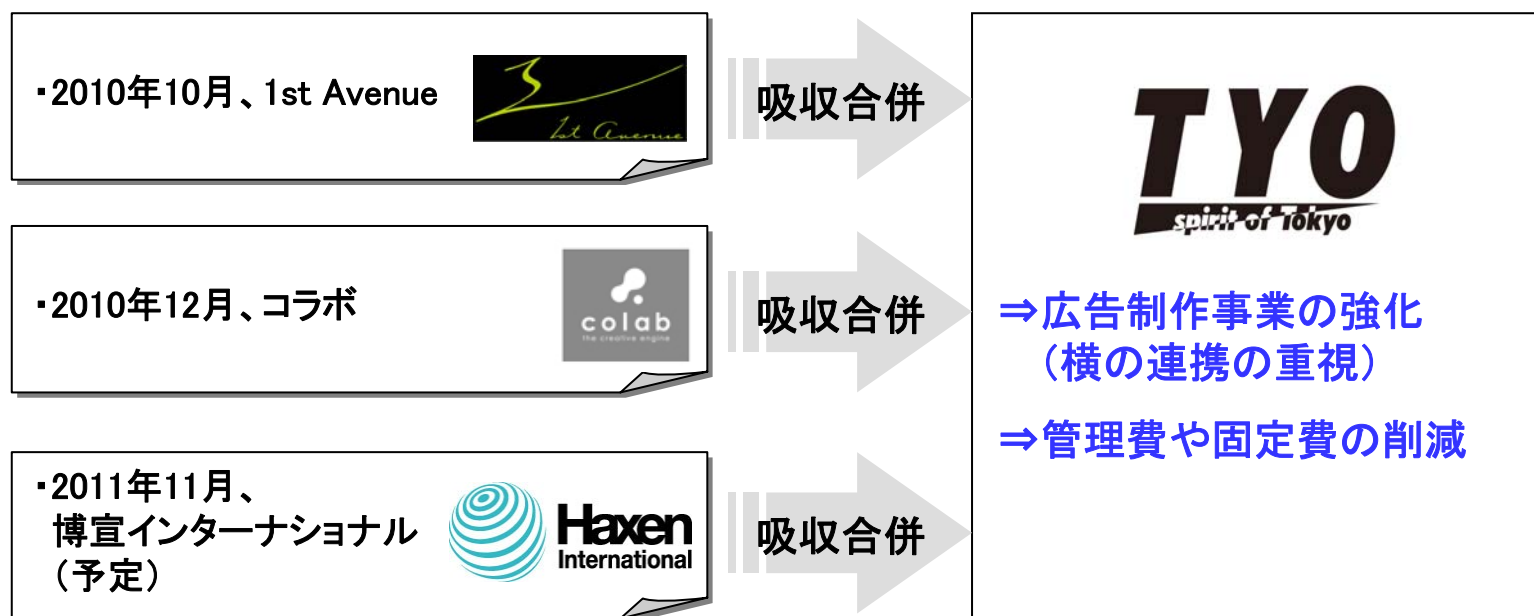
3 **コスト削減**

4 **増資**

5 **負債の圧縮**

## 2.2. ①グループ統合

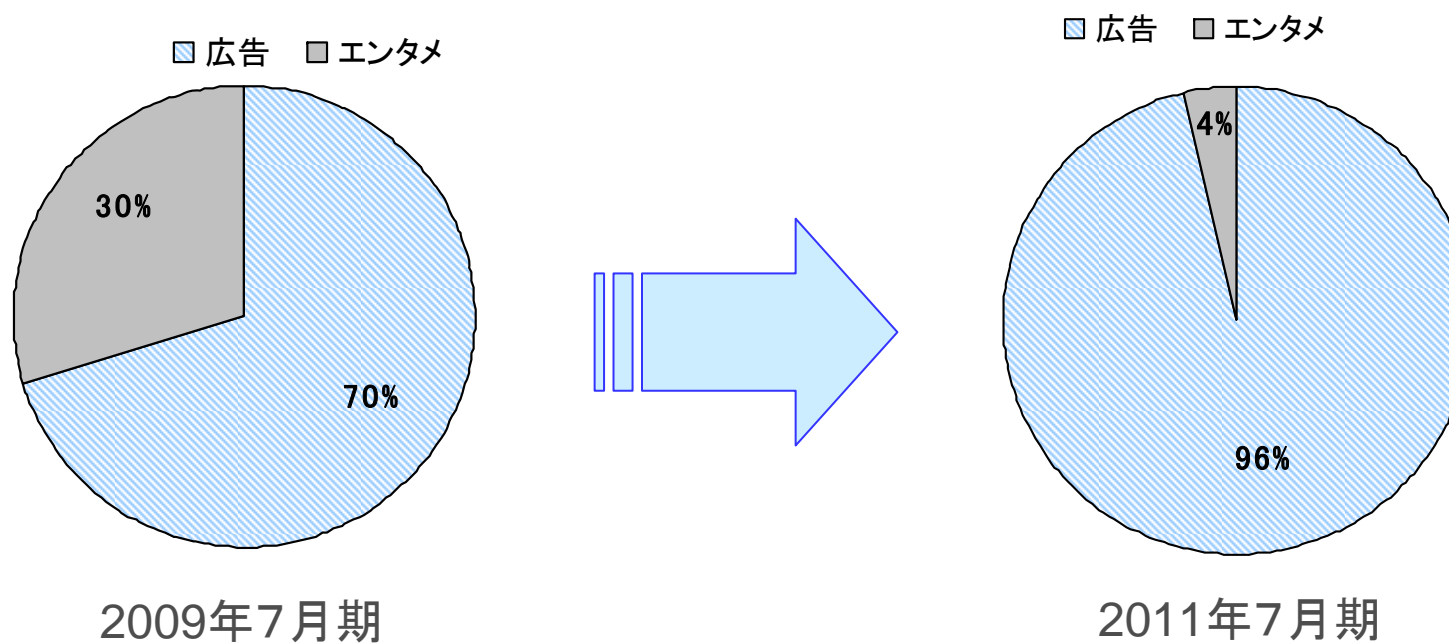
大合併後、連結子会社を更に当社に吸収合併する事で、  
**広告制作事業を強化し、管理費・固定費を削減。**



## 2.3.1. ②選択と集中【事業領域】

不採算部門であったエンタテインメント部門からの撤退により、  
本業である**広告制作事業に集中。**

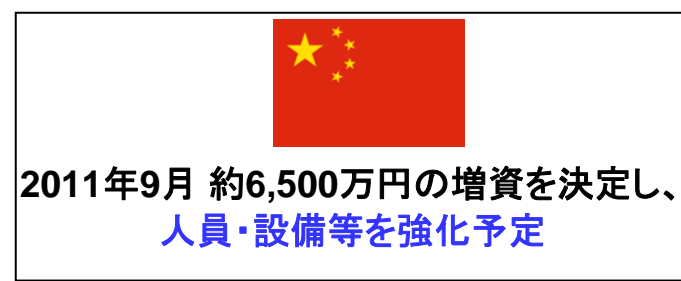
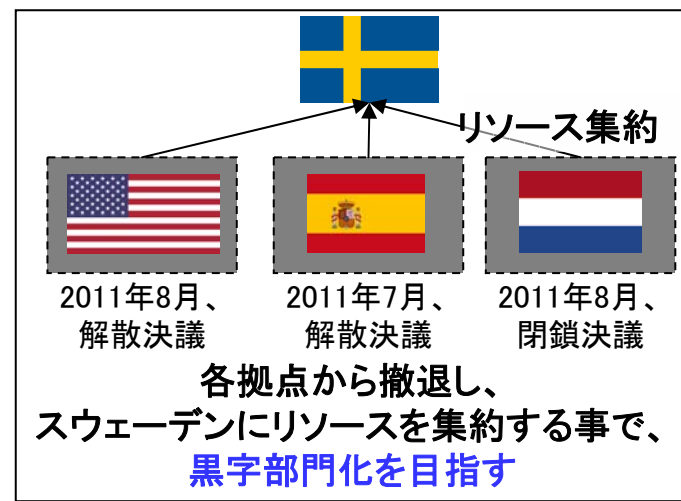
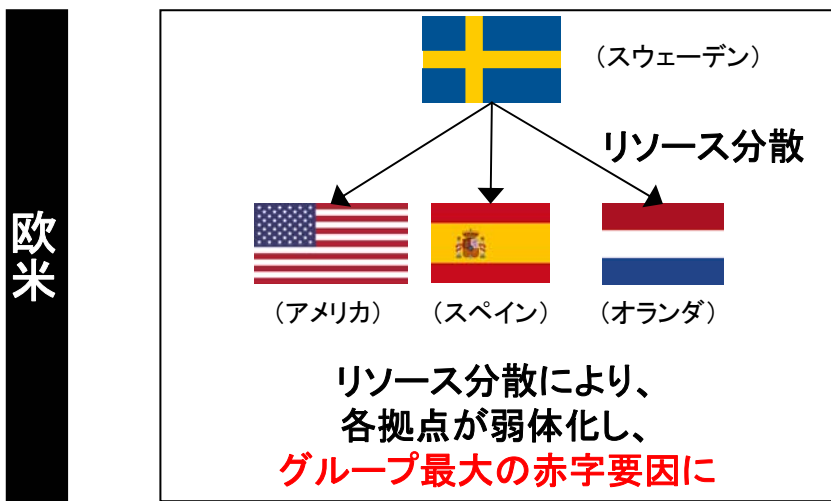
【総売上高に占めるエンタテインメント部門売上高の推移】



■ 広告部門 ■ エンタテインメント部門

## 2.3.2. ②選択と集中【地域別】

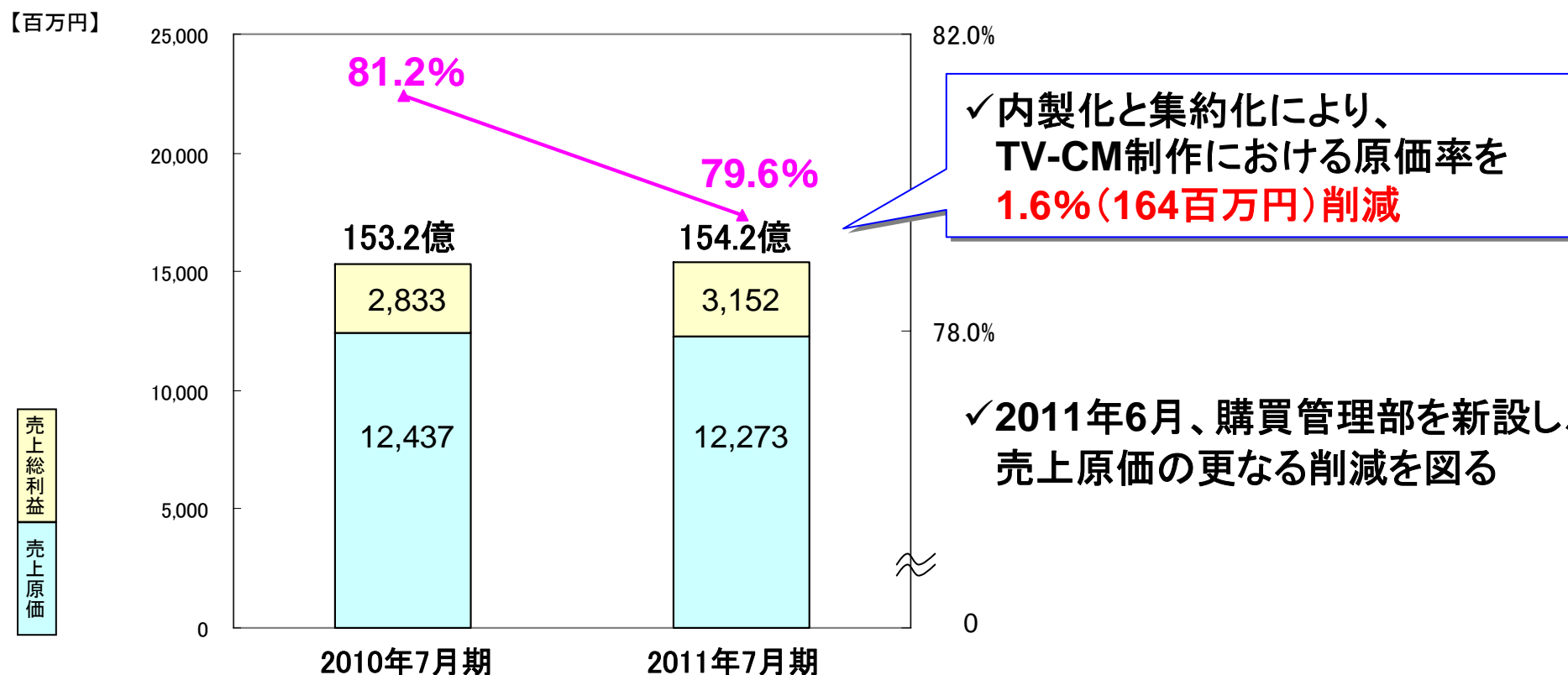
欧米では、赤字部門を閉鎖し、スウェーデンに集約する事で  
 再度の黒字部門化を目指す。  
 アジアでは、広告主の旺盛な需要に応えるべく、中国拠点を強化。



## 2.4.1. ③コスト削減【売上原価】

内製化と集約化により、  
TV-CM制作の原価率を**1.6%(164百万円)**削減。

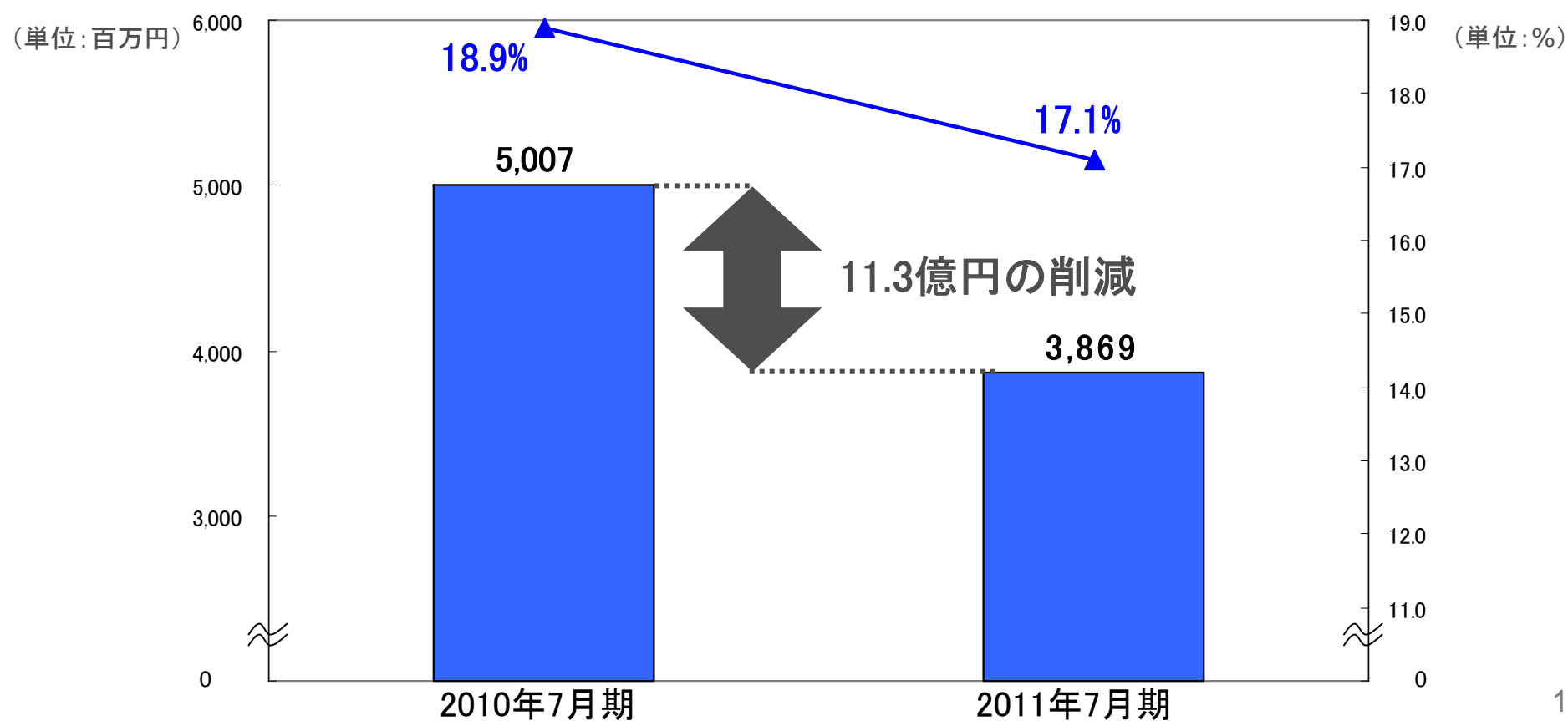
### TV-CM制作事業部 原価率推移



## 2.4.2. ③コスト削減【販売管理費】

効率化や管理費・固定費の圧縮により、**11.3億円**の削減を実現。

【販売管理費/売上高比率】



## 2.5.1. ④増資【概要】

### 第三者割当増資の概要

- 募集株式の種類及び数 普通株式26,531,000株  
(増資後の所有割合 44.4%)
- 払込金額 1,300,019,000円  
(1株につき49円)
- 増加資本金 650,009,500円
- 増加資本準備金 650,009,500円
- 払込日 2010年12月30日(木)
- 割当先 インテグラル1号投資事業有限責任組合

## 2.5.2. ④増資【インテグラルのご紹介】

### インテグラルのご紹介



**名称** インテグラル株式会社

**代表者** 代表取締役 佐山 展生  
同 山本 礼二郎

**創業** 2007年9月

**運用資金** 国内大手生命保険、銀行等

**投資実績**



(株)ヨウジヤマモト  
(婦人服・紳士服等の企画・販売)

SHICATA CO.

(株)シカタ  
(バッグの企画・製造・販売)



(株)ビー・ピー・エス  
(封入封緘機の製造・販売)



(株)アパマンショップ  
ホールディングス  
(不動産業)

### インテグラルより、 社外取締役が就任。

#### 鈴木 愛作

1994年4月 J. P. モルガン 入社  
2001年3月 ユニゾン・キャピタル 入社  
2004年6月 東ハト監査役  
2005年6月 コスモスイニシア監査役  
2007年9月 インテグラル取締役

#### 辺見 芳弘

1980年4月 三井物産 入社  
1990年8月 ボストンコンサルティンググループ入社  
1998年4月 同社パートナー  
2001年4月 アディダスジャパン副社長  
2004年6月 東ハト代表取締役社長  
2007年9月 インテグラル取締役  
2009年12月 ヨウジヤマモト取締役会長

## 2.6.1. ⑤負債の圧縮【シンジケートローン契約の締結】

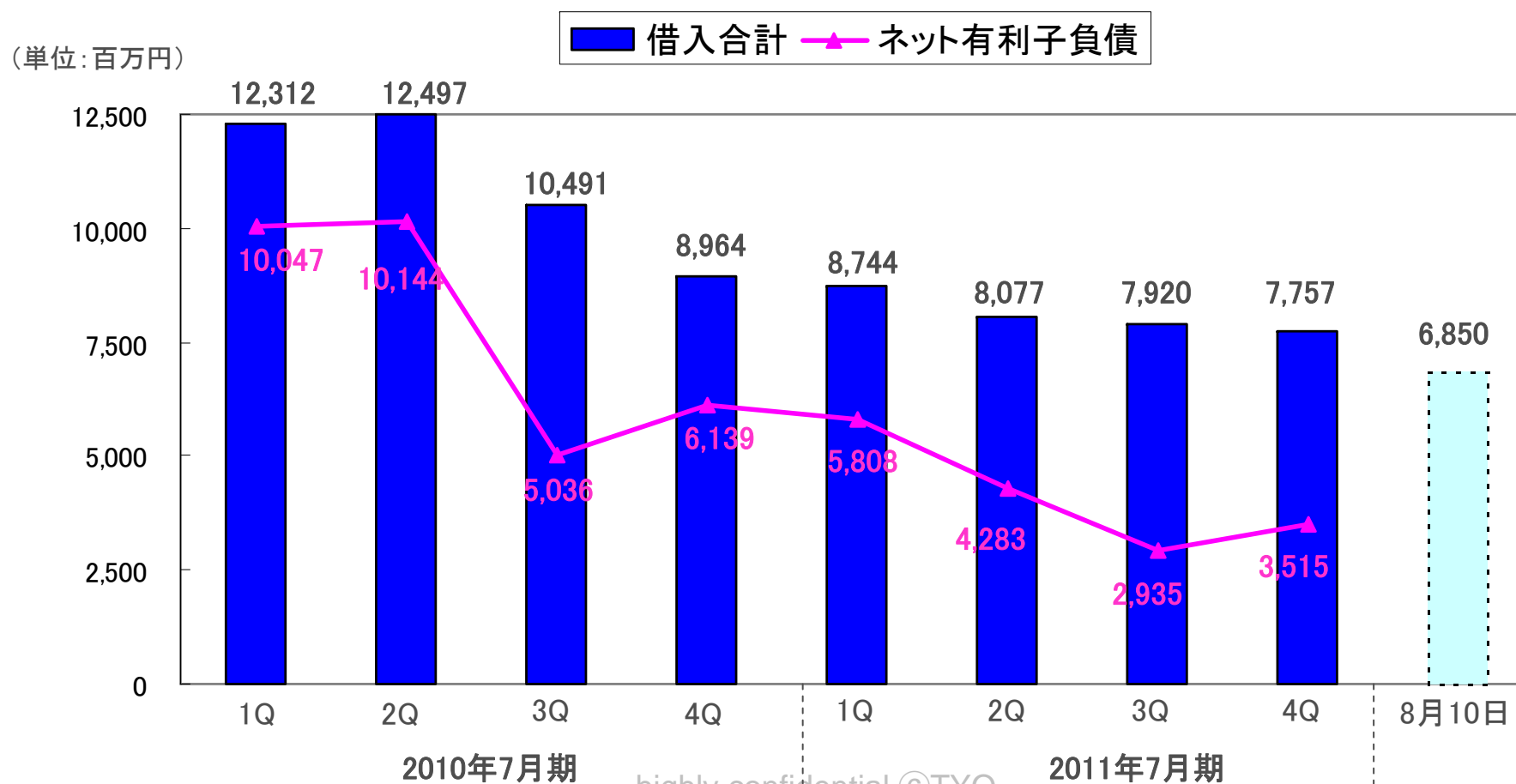
8月5日、総額68.5億円のシンジケートローン契約を締結し、  
財務基盤の安定性と資金調達の利便性を確保。

●締結日	2011年8月5日
●実行日	2011年8月10日
●組成金額	68.5億円
うちタームローン	53.5億円
うちコミットメントライン	15億円
●満期日	
うちタームローン	2015年7月31日
うちコミットメントライン	2012年8月3日

- アレンジャー兼エージェント
  - 株式会社三菱東京UFJ 銀行
- ジョイント・アレンジャー
  - 株式会社みずほ銀行
  - 株式会社三井住友銀行
- 参加金融機関
  - 株式会社三菱東京UFJ 銀行
  - 株式会社みずほ銀行
  - 株式会社三井住友銀行
  - 株式会社商工組合中央金庫

## 2.6.2. ⑤負債の圧縮【有利子負債の推移】

1年半で、有利子負債を47億円(38%)削減、  
 ネット有利子負債も66億円(65%)削減。



## 2.7. 財務基盤の改善

5つの施策の実施により、純資産が**5.4倍**に、  
自己資本比率は**7.4倍**に、大幅改善。

貸借対照表(連結)

【資産】	【負債】
	【純資産】

2010年7月期

- 純資産: 447百万円
- 自己資本比率: 2.2%

貸借対照表(連結)

【資産】	【負債】
	借入金
	【純資産】
	資本金
	利益剰余金

2011年7月期

- 純資産: **2,421百万(5.4倍)**
- 自己資本比率: **16.4%(7.4倍)**



有利子負債の圧縮: 1,207百万円

⑤ 負債の圧縮



第三者割当の実施: 1,300百万円

④ 増資



当期純利益の計上: 688百万円

① グループ統合

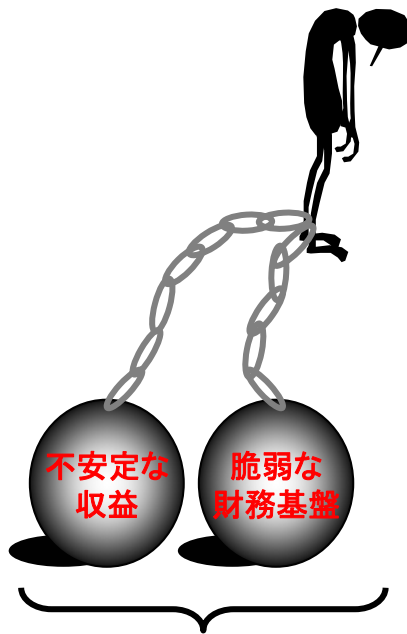
② 選択と集中

③ コスト削減

## 2.8. TYOの位置づけ

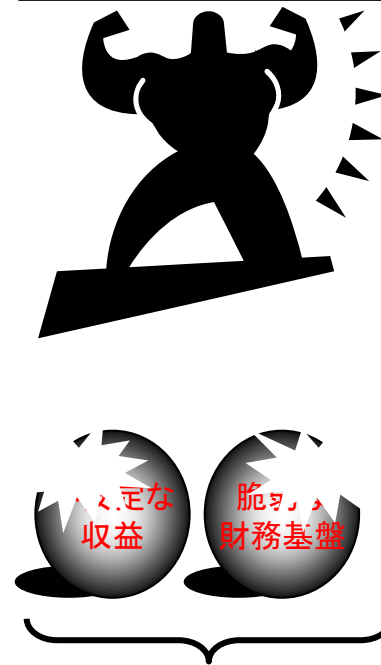
5つの施策の実施により、改革は一巡。  
2012年7月期より、TYOは再スタートする。

2009/2010年7月期



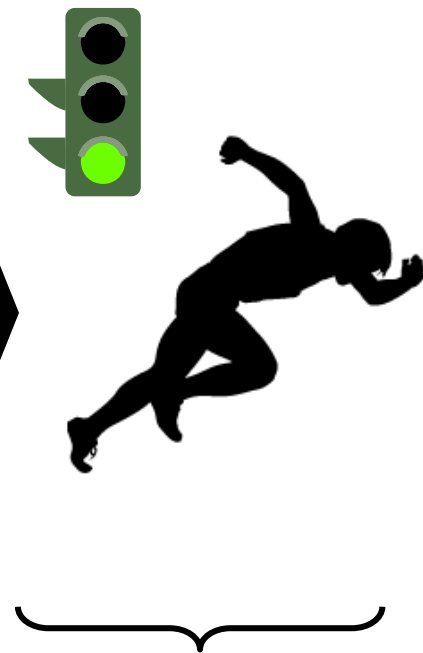
多くの課題を抱え、不安定な企業運営

2011年7月期



改革が一巡し、健全な企業体へ

2012年7月期



事業の発展に向け再スタート！

- 1 グループ統合
- 2 選択と集中
- 3 コスト削減
- 4 増資
- 5 負債の圧縮

## 2.9. 再スタートの第一歩

再スタートの為の第一歩として、  
利益剰余金のマイナスを填補する。

### 【10月21日、定時株主総会上程内容】

	2011年7月末		2011年10月末 <small>※株主総会で承認された場合。四半期利益除く。</small>	
	単体	連結	単体	連結
<b>資本剰余金</b>	1,353	1,353	748	748
資本準備金	1,353	1,353	0	0
その他の資本剰余金	0	0	748	748
<b>利益剰余金</b>	▲605	▲732	0	▲127
その他の利益剰余金	0	0	0	0
繰越利益剰余金	▲605	▲732	0	▲127

①  
「資本準備金」  
⇒「その他の資本剰余金」  
全額(1,353百万円)振り替え

②  
「その他の資本剰余金」  
⇒「繰越利益剰余金」  
欠損金(605百万円)迄振り替え

本日はお忙しい中、  
誠にありがとうございました。

何かご不明な点等ございましたら、下記までご連絡下さい。

TYO経営企画部 (03-5434-1586)